

「ぼくは、小さいころ、食べられないくらい苦手な物がいっぱいありました。・・・やさいのほとんどが、食べたくありませんでした。だから、ほいくえんのころも、小学生になっても、給食の時間が一番、きれいでした・・・」



（第 7 回「心に残る給食の思い出」作文コンクール 公益社団法人日本給食サービス協会 会長賞受賞『給食センターを見学して』愛知県 中神怜大 小 4）

私は、この小学 4 年生の怜大君の作文の冒頭を目にしたとき、思わず共感しました。実は、私も野菜全般が大嫌いで、給食時間が苦痛な子どもだったからです。そのため、息を止めて食べるとか、できるだけ嚙まずに飲み込むなど、自分なりに工夫をしてなんとかその場をしのいでいたのです。

ところが、怜大君は、ただただ給食の時間をいやいや過ごしていた私とは違っていました。みんなが自分の苦手な物をおいしそうに食べているのを見て、「ちょっと食べてみよう」と思い挑戦してみたり、給食がどんな風に作られているのか興味をもったりして、給食センターを見学に行くこともしたのです。更にそこから学びを得た怜大君は、「・・・ぼくたちの給食にこんなにたくさんの方が一生けん命作ってくれているのに、給食の時間が一番きれいといってごめんなさいと思いました。給食をしっかり食べて、強くて大きい人になります。いつも給食を作ってくれて、ありがとうございます」と、作文を結んでいます。

さて、みなさんは、地元食材を活用した給食の味や栄養価を競う「全国学校給食甲子園」が開催されているのをご存じですか？

この大会で、奥州市の胆沢学校給食センターが、全国 1,447 の応募の中から優秀賞に選ばれました。この時、学校栄養職員の菊地万里子さんは、毎月 11 日を東日本大震災の月命日とする市内の決まりがあると紹介しました。その上で、「内陸部の奥州市は、津波被害を免れたが、野菜生産者はビニールハウスのポンプが止まり、寒さから苗を守るのに必死だった。豆腐店は、ガソリンがなくなって納品できなかった。私たちの給食は、多くの人の思いによってできている。だから、11 日の月命日は、災害への備えを確認するとともに、命の尊さや感謝の心を学ぶのだ」というプレゼンテーションをしたそうです。

子どもの食べ物の好き嫌いを克服することは、かなり手強いことと思います。しかし、給食が子どもたちのところに届くまで、どれだけの人が関わり、そこにどれだけの思いや願いが込められているのかということ、身近な大人がどれだけ意識できるかということも、大切だと感じました。【A】



○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索